

2018年度第7回環境科学部フィールドスクール（12/15）

「温泉熱利用の多様性について」が行われました。

12月15日（土）の第7回環境科学部フィールドスクールは、「温泉熱利用の多様性について」をテーマに、雲仙市の小浜温泉および雲仙温泉で実施しました。午前中、雲仙Eキャンレッジ交流センターで、一般社団法人小浜温泉エネルギー・佐々木裕事務局長から、温泉熱・温泉水の様々な利用方法や現在小浜温泉で行われている取り組みについての説明が行われたのち、小浜温泉で浴用以外の温泉熱・温泉水の利用をしておられる、湯せんぺい店、旅館、蒸し窯を利用したレストランを訪問させていただきました。午後は、雲仙温泉に移動し、雲仙地獄の地熱がどのように利用されているか、また雲仙お山の情報館では、雲仙火山の成り立ちや温泉のしくみについて学びました。このフィールド学習では、温泉熱・温泉水に多様な利用方法があることについて、地域の取組と合わせて詳しく学ぶことができました。



雲仙Eキャンレッジ交流センターでの説明



旅館の温泉水利用施設の見学（写真は温泉水の温度を測っているところ）



未利用温泉水が海に放出されている様子を見学



雲仙地獄の見学